

「後期高齢者のみなさん、手をつないで歩きましょう！」

黒田 朔



GRC23

( Global Returnee  
Conference・海外から  
の帰国者クリスチャン  
大会)

が富士山の麓で開かれ  
夫婦で参加してきました。

日本では教会とは縁がなかった人が海外生活で教会の交わりに触れ、クリスチャンとなって帰国した人々が励ましと情報交換のために3年に一度開かれているものです。子供連れで参加していた元留学生、牧師として活躍する元反発していた元駐在員。帰国後、色々、どんなに変わっていても、集まると海外生活当時に戻り、以前のように若返るのは同窓会と同じ。今回は200人ほどが参加し、私たち夫婦は最高齢でした。

日本では教会とは縁が

海外生活は異文化体験から始まりますが、教会も海外では違います。日本ではキリスト教会は聖く、義しい神のみ前に集まる真剣で厳肅な人々ですが、海外の教会は愛と赦し神の前に集まる喜び集団、教会にも文化のギャップがあります。世間一般はこの文化のギャップを上手に受け入れ、時には、乗り越え、日本は激しく変化していますが、不思議にも異文化融合がキリスト教会では起こらず以前のまま。その結果、海外で信仰を持った7、80%クリスチャンたちが帰国後、3年以内に姿を消すそうです。

日本ではキリスト教は認められ、信頼されながら、一般から受け入れられないのは、文化的な変化を敏感にキャッチし、歓迎する一般の人々がなかなか変化に順応しない教会を古臭い、まじめ集団と見て、魅力を感じないためだと思います。Iターン、Uターンする人々が新しいライフスタイルとして紹介され、「あんな変化ができるといいなあ」と羨ましがられる声を聞く度に、海外で見つけた人生を変えた喜びのライフスタイルを保ち、「あんな夫婦、あんな家族になれたらいいなあ」と羨ましがられるようになれないものかと思っています。そこで、私たち夫婦は後期高齢者の帰国者クリスチャンとして男里川の河原を手をつないで歩くことを続けようと思っています。